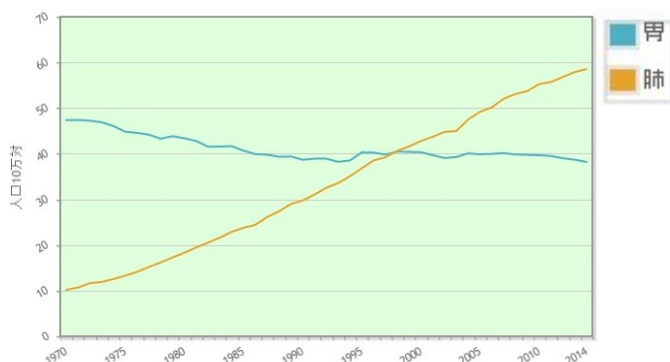




タバコはダメ！「禁煙が最も重要な肺がん予防策です」

■もっとも死亡数が多い肺がん

日本人の2人にひとりががんになるといわれる時代ですが、年間約8万人が肺がんになり、そのうち7万人が死亡する、がんの中で最も死亡数が多い病気です。また、5年生存率も20%強で、肝臓と並んで治療が難しいとされています。



資料 国立がん研究センター がん登録・統計部
Source: Center for Cancer National Cir
肺がん・胃がん死亡率の年次経過

肺がんの原因の70%はタバコです。タバコには約60種類の発がん物質が含まれており、肺や気管支が繰り返し発がん物質にさらされることにより細胞に遺伝子変異が起こり、この遺伝子変異が積み重なるとがんになります。

■無症状が多く、治療困難な肺がん

肺がんの特徴的な症状はありません。肺がんの種類、発生部位、進行度によって症状は異なります。最も多いのは無症状で、検診や、他の病気で胸部エックス線やCTを撮ったときに偶然発見される場合です。そのため太子道診療所の健康サポートセンターでは肺がん検診のため、胸部CTをオプションで実施しています。

■肺がんの診断と治療

たん検査や気管支鏡を用いた細胞検査で、肺がんの種類(小細胞がん、扁平上皮がん、線がん、大細胞がん)を明らかにします。小細胞がん、非小細胞がん(小細胞がん以外のがん)で進行度に応じて治療法が異なります。極めて進行が早く、発見された時には

すでに転移している場合が多い小細胞がん、小細胞がんほど早く進行しない非小細胞がんでは、治療法が異なります。

肺がんは、早期であれば手術が最も治癒の期待できる治療法ですが、発見された時には進行している場合が多く、手術のほかに放射線治療や抗がん剤治療、さらにこれらを組み合わせた治療が選択されます。全身のがんの中では、最も治療が難しいがんのひとつです。

■禁煙がもっとも重要な肺がん予防策

喫煙者は肺がんになりやすいだけでなく、薬が効きにくい、副作用がでやすいといった不利な状況が確認されています。喫煙は、肺がんの発生に強く関与することが証明されており、現在、最も重要な肺がんの予防対策は禁煙の徹底です。また、受動喫煙で周囲の人の発がん率も高めます。いずれにしても、喫煙は今すぐ止めることが推奨されます。

所長 宮岡 博之

★禁煙で肺がん予防をしましょう。太子道診療所では禁煙外来を行っています。

★喫煙者は年に1回は胸部CT検査(5,400円税込み)を受けましょう！



臨時休診のお知らせ

11月10日(木)・12月8日(木)は臨時休診させていただきます。緊急連絡は代表電話にお願いします。

* お問い合わせ先 *

太子道診療所・健康サポートセンター
電話 075-822-8246
FAX 075-822-2861

* 京都市の乳がん検診・子宮がん検診の無料クーポン券をお持ちの方は早めに受診しましょう。